

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



KAWASAKI CITY

平成26年8月18日（月）～平成26年8月24日（日）〔平成26年第34週〕の感染症発生状況

第34週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)ヘルパンギーナ 3)突発性発疹でした。

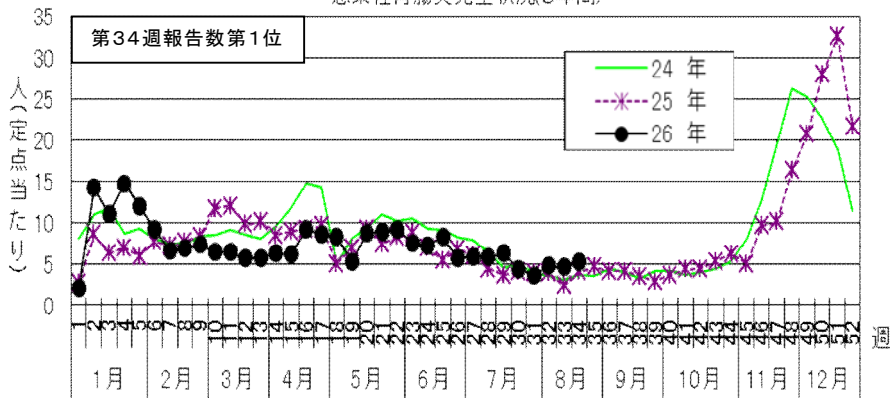
感染性胃腸炎は定点当たり5.30人と前週（4.65）より患者報告数は増加し、例年より高いレベルで推移しています。

ヘルパンギーナは定点当たり3.21人と前週（5.80）より患者報告数は減少しましたが、例年より高いレベルで推移しています。

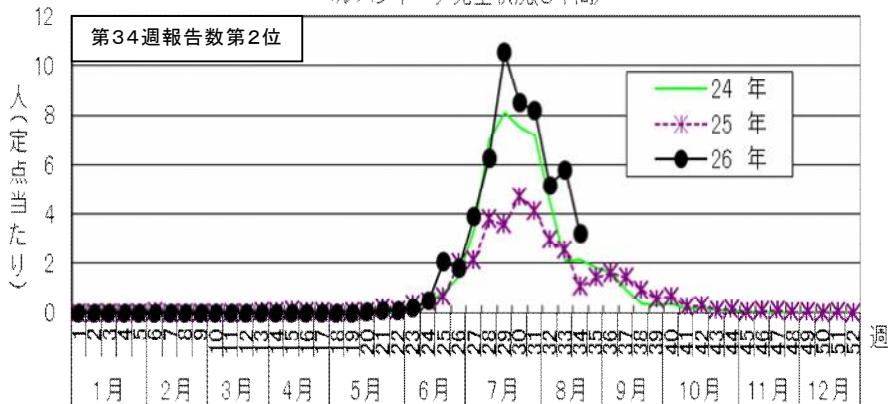
突発性発疹は定点当たり0.79人と前週（0.60）から患者報告数は増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。



感染性胃腸炎発生状況(3年間)



ヘルパンギーナ発生状況(3年間)

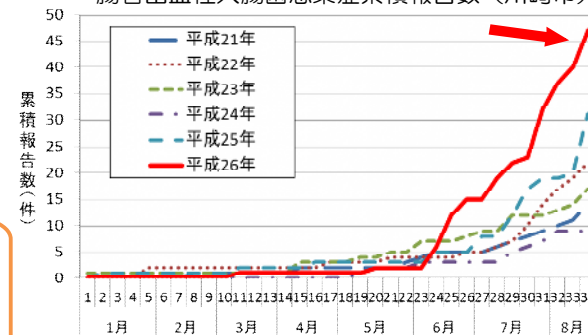


腸管出血性大腸菌感染症に注意！！

全国的に腸管出血性大腸菌感染症（O157、O26 など）の届出数が増加しており、川崎市でも例年を超える勢いで増加しています。腸管出血性大腸菌は、菌に汚染された食べ物を食べることや、患者の糞便で汚染されたものを口にすることで感染します。

いずれの場合も、手を介して感染することが多いため、「**手洗い**」を行うことがとても重要です。日頃から手洗いの習慣を身につけましょう。

腸管出血性大腸菌感染症累積報告数(川崎市)



「手洗い」は感染症対策の基本です。正しい手洗いを心がけましょう。

①	②	③	④	⑤	⑥
石けんをつけ、手のひらをよくこする。	手のこうを、もう一方の手のひらでこする。	指先・つめの間をよくこする。	指の間をよく洗う。	親指を、もう片方の手でつつんでこする。	手首も洗う。